



都留支部新人戦 ～ 3年生が残した功績を1・2年生がつなぐ

9月28日(木), 壮行会を行い, 選手の士気を高めました。今回は3年生の応援団が懸命に1・2年生の選手を檄を飛ばして称え, その檄を選手たちはしっかり受け止めていました。心がふるえる見事な壮行会でした。

10月7日(土)から3日間, 都留支部新人戦。各会場で熱戦が繰り広げられました。3年生が引退して2ヶ月余り。新部長を中心に練習に励んできました。特に3年生が残した功績をつなぎ続けるように頑張ってきました。この「つなぎ継ぐ」ことが伝統という重みになるはず。つなぎとめられなかった部は他校のよいプレイを取り入れ, ゼロスタートで練習に励んで欲しいと思います。(詳しくはホームページをご覧ください。)



結果は以下の通りです。(☆印は県大会出場・★印は県大会オープン参加)

- 1位 バスケットボール男子(☆) ヲレーボール女子(☆) 野球(☆)
- 2位 (バレーボール男子(★))
- 3位 卓球男子(★) ソフトテニス男子 ソフトテニス女子
- 4位 バスケットボール女子 卓球女子(★)

個人戦では, 卓球男子の武田稜平君が1位, 石井詩也君が3位, ソフトテニス男子の福田颯・雨宮大ペアが4位, 女子の淡野友梨愛・小宮凜子ペアが3位を獲得しました。

義務教育振興都留市民会議

9月30日(土), 義務教育振興都留市民会議がまちづくり交流センターで行われ, PTA会長さんをはじめ, 14名が参加してきました。その中で, PTA会長さんがランド車両用出入り口新設工事・前庭舗装工事・クラブハウス改修工事・石灰庫新設工事・AED増設の5点を陳情してくれました。ありがとうございました。その後, 「全国学力・学習状況調査からみえる都留市の児童生徒」をテーマにテーブルディスカッション方式で話し合いが行われました。



教育実習生が2名 ～ 教師をめざして

本年度, 2名の都留文科大学生が教育実習にきました。木下先生は英語と2年生を担当し, 瀬川先生は社会と1年生を担当。若さみなぎる指導で, 本校職員も力をもらいました。この実習期間中に様々な経験をして, 益々教員になりたいと思っただけだと嬉しいです。(木下先生の実習は10月6日に終了しました。瀬川先生は20日までです。)



理科自由研究発表会

9月22日(金), 理科自由研究発表会が都留市ふるさと会館で行われ, 3名の生徒が発表してきました。

1年生の上田さんは「酵母の種類と発酵倍数による比較研究」を, 2年生の天津さん姉妹は「液体の蒸発と温度変化」の発表を行いました。上田さんはお母さんが作るパンに着目し, 5年生の頃から継続研究をしています。今回は酵母の時間や膨らませる倍数によってどんな変化があるかを研究しました。

天津さんたちはエアコンが涼しくなる仕組みから, 液体が気体になるときの「気化熱」について着目し, 水やエタノールを用いて研究しました。

3名ともパワーポイントで資料を作り, 堂々と発表することができました。結果は優秀でした。



私の好きな一冊 今月号は清水慶太先生と市川直美先生

「心を整える」 長谷部誠著

私はほとんど本を読みません。じっとして本を読むことが苦手です。自分の好きなこと(スポーツ関係のものや将棋とか...)に関わる本を見かけると, 少し「んっ」と思いますが, パラパラめくって見る程度で, 読書にはあたりません。「好きな本」と言われると, 困ってしまいますが, この機会に読んでみようと思ったのがこの本です。

まず「心を整える」という言葉から引っかかります。今までの人生で「心を整えよう!!」と思ったことはありません。「心を強く」とか「心を鍛えろ」というような言葉は言われたことがある気がしますが...。生活のリズム, つまり睡眠や食事や練習などから心に有害なことをしないように日々の生活を送る。それができなかった時に乱れた部分を整える。本を読んでいくうちに, 「心を整える」という言葉がしっくりくるようになり, 心を整えることは日常の様々なことに繋がると思いました。本の中には長谷部選手が勝利を手繰り寄せるための56の習慣が紹介されています。共感するものを見つけたり, 自分なりの習慣を考えて心を整えてみると, 今後の生活が変わってくるかなと思いました。

(文責:清水慶太先生)

「一瞬の風になれ」 佐藤多佳子著

プロローグはFCに所属する中学二年生の新二がサッカーに対する悩みから始まる。

この小説は三部作からなり, 一作目は高校入学後のクラブ活動や友達関係など, 青春の揺れ動く心を軽快なタッチで描いている。新二は, 迷った末にサッカー部でなく陸上部に入る。作者は同じ部に入った小学校からの親友「連」や仲間との交流を巧みな会話形式で述べている。また, 短距離走の技術面に専門的な解説を加えるなど, 走ることが大好きな若人をひきつける魅力があるのもこの小説のセールスポイントのひとつだ。夏合宿の場面では生徒たちの息切れが聞こえてきそうな写実的な描写に思わずいっしょに読み進んでしまう迫力がある。連の夏合宿脱走, 試合放棄など次々と難事件が起きるが, 新二たちは新人戦に向け個人種目や400m リレーの練習に励む。連も復帰した新人戦のリレーでは信じられない記録をだすが惜しくも失格になってしまう。四人はインターハイへ出場する決意を固め物語は二作目へと続く。

(文責:市川直美先生)